

V-41 本校舎 幼稚部・小学部

1 授業研究会について

幼・小学部では自立活動を中心とした様々な要素を含めた教科・領域の中でキャリア教育の授業研究を進めてきた。少人数の学習の中で自己有用感を感じられる場面の設定の難しさや幼児期から「ありがとう」の気持ちを育て、自己有用感を感じることができる課題設定の重要性を確認することができた。

2 発達段階に応じた自己有用感の形成・自己有用感の向上のための支援について

(1) 授業実践を通して得られた有効な支援

※網掛けは幼・小学部キャリア教育目標と関わりのある部分

○意欲の向上と思考の深まり

- ・「お願い」に対しては「ありがとう」など丁寧な対応
- ・褒めること（言葉の選び方やほめ方のバリエーション）
- ・話し方や早口にならないよう、ことばを精選して投げかけることで幼児・児童たちが思考する時間を大事にする。

○自己肯定感・自己アピール

- ・自分のよいところを見つけることができない児童に対して、友達からみたよいところを伝え合ったり、時間をゆっくりと自分と向き合うことを大事にした方がよい。
- ・考えやまとめを発表する時には前に立って発表させる。

○コミュニケーション（幼児間・児童間のかかわり）

- ・お互いを意識する工夫。（発言の際の注目、ペア学習など）
- ・主とするコミュニケーションモードの違いによる、子供同士の気持ちや思いが通じない際の支援の必要。

○自己理解

- ・同じ学年のたくさんの子供の考えを聞く機会も必要（交流などの活用）。

○集団の中での自己有用感

- ・当番や発言している人への注目を促す。（T1及びT2の役割や入り方の工夫）
- ・授業の中でのルール作り（発言時、待つこと、発言のしかたなど）
- ・お互いを意識できるような座席の配置

(2) まとめ

幼稚部段階では「総合生活力」としてコミュニケーションの力を養い、「豊かな人間性」の形成につながることを中心として日々の生活の中で取り組んできた。ことばの力を育みながら、友達や身近な大人とのコミュニケーションを、基本的な挨拶や友達とのやりとり

を促すことを目標としてきた。当番活動などを通して自分の役割を意識し、また友達を尊重することでお互いの存在を感じることができてきた。

小学部段階では準ずる教育を進める中で「確かな学力」をつけることを中心に取り組んできた。自分で考え、自己決定し、家庭や社会で働く人へ関心をもつような題材設定や教材を用意することが必要である。また、友達存在をお互いに認め合い、尊重することができるような支援が必要である。

幼稚部・小学部共通に言えることとしては、意欲の向上及び自己肯定感へつながる為の支援として、「褒める」「否定せずに受け止める」言葉かけや姿勢を大事にする。また、お互いへの「ありがとう」に気づき、積極的にことばに出して行くということを大事にする支援が必要と言える。

課題としては、幼稚部・小学部共に2人や3人という少人数での授業が多いため、集団の中での自分の役割や自己アピールなどの機会が少なくなってしまう、同年齢の仲間達の中での自己有用感というものを育みにくい状況にある。交流などにも積極的に取り組んでいるが、日常の中でお互いの存在を認め合い、尊重できるような支援や授業作りが必要だと考えられる。